

市制施行30周年

決定しました! キャッチフレーズと記念事業アイデア

市民の皆様にご募集していました市制施行30周年のキャッチフレーズと記念事業のアイデアがこのほど決まりました。キャッチフレーズには86点の作品が寄せられ、大賞には一瀬美奈子さん(物集女町)の「Link7.67～みんなで築くむこうの未来～」が選ばれました。また、記念事業のアイデアには40点が寄せられ、大賞には北村政子さん(上植野町)の「(仮)長岡京のドラマ化」が選定されました。市では、今後、大賞作品をまちづくり事業として活用を図っていきます。



大賞 「(仮)長岡京のドラマ化」

私は向日市民になって、20数年になります。はじめは長岡京市に引っ越して来たつもりでした。それは、『長岡京』の都の中心がこの土地にあったからです。このような間違いの反省のうえにたって、このたび、私は、『平城京』と『平安京』をつないだ『長岡京』、そしてまた、『日本』と『百済』を結んだ史実に『つなぐ』を考えました。

幻の『長岡京』が中山修一先生に発見されて久しくなりますが、時代の変遷をひもとく上で、どれほどの人々に、この『長岡京十年』の存在が知れわたっているのでしょうか。そして西暦789年に没した、桓武天皇の母(高野新笠百済系渡来人)は、国と国を『つなぐ』役割を担った女性でした。

そこで記念事業に、『長岡京』のドラマ化はいかがでしょう。年齢、プロ、アマなど、すべての垣根を無くして全国規模で作品を募集するものです。

例えばNHKの大河ドラマ起用を願えるほどの重厚な小説や、小学生の作品でもいいものでしたら、脚本にも絵本にも出来ます。学校、学級ごとの取り組み、親子の合作があっても、尚一層、嬉しいことです。

奈良時代の末期、女帝の活躍もむなしく、権力争いなど不安定な政治が続き悲劇がそのまま持ち込まれた感のある『長岡京』です。不幸ばかりが強調されているように思えるのです。(私の個人的な思いかもしれませんが)

少し視点を変え、かつては女性も国の政に携わっていたこと、そしてやはり『長岡京』の『歴史をつなぐ重要な役割を担っていた部分』をもう一度、掘り起こすと同時に、『私たちの街への誇りと自信』が未来に『つなぐ』きっかけになってくれると良いと考えました。

表紙写真: 鬼瓦(長岡宮跡)

市長のひとこと「アイデアをありがとうございました」

word

平成14年度予算は現在市議会でご審議をいただいております。その中には、財政事情が非常に厳しい中で、向日市の30周年を祝う事業経費も含まれています。

選定された「(仮)長岡京のドラマ化」は、市民の皆様からいただいたアイデアの最優秀賞を具現化するもので、メインテーマである「つなぐ」にふさわしく、人とひととのつながりや人とまちとのつながりを深め、本市の未来の創造につながっていく事業であると確信しています。

これらの記念事業の成功をお約束するとともに、今後のまちづくりにつきましても、市民と行政とがよきパートナーとして、市民の皆様と共に考え、展開する市政運営を基本に推進してまいります。

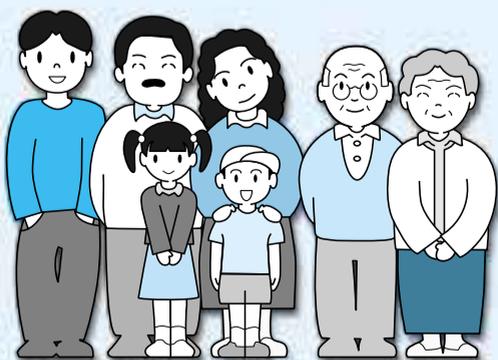


笑顔が輝く健康都市

向日市長 岡崎 誠之



大賞 キャッチフレーズ



「Link7.67～みんなで築くむこうの未来～」

市制施行30周年記念事業の啓発ポスターや広報媒体に使用し、記念事業を盛り上げていきます。

30th Anniversary